

# 基礎知識



## そもそも赤穂義士伝（忠臣蔵）とは…

播州赤穂（兵庫県）の赤穂藩の藩主・浅野内匠頭（あさのたくみのかみ）は、旗本・吉良上野介（きらこうずけのすけ）の兼ねてからのいじめに耐えかね、江戸城・松之大廊下で刃傷におよんだ。その咎により浅野内匠頭は切腹を命じられ、赤穂藩はお家断絶となった。残された赤穂の浪士たちは、筆頭家老・大石内蔵助（おおいしくらのすけ）を中心に、主君の仇を討つことを決意。仇討ちに備える吉良上野介を欺き、世間の目も欺きながら、赤穂義士四十七人の面々は、忠義を胸に秘め、討入の日を待つ。かくして1年半余を経た元禄15年12月14日、吉良邸に討ち入った四十七士は、みごと本懐を遂げるのだった（討入の合図として鳴らされたのが山鹿流陣太鼓である）。この史実をベースに、赤穂義士にまつわるさまざまなエピソードを（創作も交え）、人形浄瑠璃、歌舞伎、講談、そして浪曲、映画などによって描いたのが、いわゆる《赤穂義士伝》である。



## 中山安兵衛ってだれ？

中山安兵衛は、「のんべえ安」「けんか安」の異名を持つ剣客である。果し合いの助太刀を買って出た《高田馬場の決闘》は、「忠臣蔵」のエピソードの中でも最も有名なひとつで、映画化も幾度もされている。高田馬場の決闘で赤穂義士の一人・堀部弥兵衛に見込まれて弥兵衛の婿養子に迎えられ、堀部安兵衛となる。討入においても最も活躍した一人。※右は、弥兵衛と安兵衛を描いた歌川国貞による浮世絵。



たわらばしげんば

## 俵屋玄蕃って何者？

赤穂義士伝に登場する架空の人物。槍で俵を突き刺し放り投げる「曲突き」の特技を持つ豪傑。吉良邸の近所で道場を開いている槍の名士として造形された。道場の前に立ち寄る屋台の蕎麦屋が、実は吉良邸を偵察する赤穂義士であることを見抜き、その男（杉野十平次）にシンパシーを寄せる。吉良側から槍の腕を見込まれ用心棒にスカウトされるがそれを断り、討入の夜、陣太鼓の響きで加勢にゆき、吉良の援軍を阻止してみせる。

# 日本人の心を揺さぶる赤穂義士伝を大胆にアレンジした 笑いあり、アクションあり、ロマンスありの痛快娯楽時代劇！

## 忠臣蔵 暁の陣太鼓

1958年 / 松竹 / 監督：倉橋良介 / 脚本：中沢信、田辺朝巳 / 撮影：広田彰三  
出演：森美樹、嵯峨三智子、近衛十四郎、河野秋武、澤村國太郎、香川良介、佐乃美子、市川寿海、榎本健一、トニー谷、名和宏、林与一（1時間37分 / 35mmフィルム）

赤穂義士随一の剣客・中山（堀部）安兵衛の物語に、義士伝に登場する架空の人物・俵屋玄蕃を絡ませた、常識破りの大胆なアレンジによる異色忠臣蔵映画。

主演は、松竹売り出しの若手スター・森美樹。やさぐれているが色気と清潔感がある（今で言うと高良健吾のようなタイプ）、26歳で事故死した夭折のスターだ。中山安兵衛と添い遂げられず女俠客となる三日月お勝を演じるのは、嵯峨三智子。撮影時、嵯峨は森美樹と

恋愛関係にあったが、勝気ながら女らしい哀しみを持つお勝の、果たせぬ恋の物語として見ることもできる。

俵屋玄蕃を演じるのは、目黒祐樹・松方弘樹の父で、殺陣において日本一と言われた名優・近衛十四郎。『元禄名槍伝 豪快一代男』（1955）に引き続き2度目となる俵屋役で、見事な槍の殺陣を見せている。

劇中、フラフープが登場するなど、映画のウソを存分に生かした、悲壮感のない爽快な赤穂義士伝だ。



## 赤穂義士伝 俵屋玄蕃

小菅一夫・脚色

玉川奈々福

曲師：沢村美舟

某藩の槍術指南役であったが、酒の上の争いで朋友を殺してしまい、今は浪人となって、両国で道場を開いている俵屋玄蕃。ある晩、屋台蕎麦屋がやってくる。蕎麦屋とは世を忍ぶ仮の姿、まことは赤穂浪士・杉野十平次。ひそかに吉良邸を探っている。玄蕃はそれを一目で見抜く。杉野は玄蕃を避けるようになるが、両国橋のたもとで再会する。

9月22日(火・祝)

昼 2:40 開演(終演 5:10)

「映画上映～浪曲口演」の順

シネマ5 bis

大分市府内町3丁目焼肉「たつみ」隣 B1F  
お問い合わせ 097-536-4512

全席指定 映画+浪曲 2,800円(税込)

●9月6日(日)13:00 発売開始(シネマ5にて)

限定 80席

新型コロナウイルス感染症対策により、客席は1席飛ばしにて販売いたします。お並びではご覧いただけませんのでご了承ください。